

## 平成18年3月期 第3四半期財務・業績の概況（非連結）

平成18年2月8日

会社名 株式会社平賀

(JASDAQ・コード番号:7863)

(URL <http://www.pp-hiraga.co.jp/>)

代表者 役職名 代表取締役社長

氏名 平賀 豊

問い合わせ先 責任者役職名 取締役管理本部長兼管理部長

氏名 中村 則丈

TEL:(03)3991 4541

### 1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有

- (1) 貸倒引当金については、直前決算期の貸倒実績率等に基づき計上しております。
  - (2) 固定資産の減価償却費については、年間償却額の当四半期分を計上しております。
  - (3) 税金費用の計算方法については、簡便的な方法を採用しております。
  - (4) その他影響額が僅少なものについては、一部簡便的な方法を採用しております。
- 最近事業年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無

### 2. 平成18年3月期第3四半期財務・業績の概況（平成17年4月1日～平成17年12月31日）

#### (1) 経営成績の進捗状況 (百万円未満切捨)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
18年3月期第3四半期	5,528	(5.3)	85	(-)	91	(-)	52	(-)
17年3月期第3四半期	5,835	(2.0)	173	(-)	186	(-)	115	(-)
(参考)17年3月期	7,732		193		207		105	

	1株当たり四半期(当期)純利益		潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益	
	円	銭	円	銭
18年3月期第3四半期	14	10	-	
17年3月期第3四半期	31	00	-	
(参考)17年3月期	21	58	-	

(注) 売上高・営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期増減率を示しております。

#### [経営成績の進捗状況に関する定性的情報等]

当第3四半期におけるわが国経済は、原油価格の動向などによる不透明感があるなか、緩やかな回復基調で推移いたしました。

広告業界におきましても、広告媒体全体では増加傾向で推移いたしました。広告媒体別でみると折込広告に関しては、首都圏における原稿出稿量は小幅ではありますが増加致しました。

一方印刷業界におきましては、企業間競争は厳しさを増しております。

このような状況のなか、当社におきましては、企業の広告費削減による広告媒体の複合化や企業間競争による販売価格の低迷により、当第3四半期における売上高は、5,528百万円（前年同期比5.3%減）、経常利益91百万円、四半期純利益52百万円となりました。

## (2) 財政状態の変動状況

(百万円未満切捨)

	総資産	株主資本	株主資本比率	1株当たり株主資本
	百万円	百万円	%	円 銭
18年3月期第3四半期	7,549	3,562	47.2	959 12
17年3月期第3四半期	7,154	3,610	50.5	972 07
(参考)17年3月期	7,103	3,603	50.7	963 25

## [ 財政状態の変動状況に関する定性的情報等 ]

当第3四半期の財政状態は、平成17年3月期と比較し総資産は、4億46百万円増加の75億49百万円となりました。これは主に、売掛金が1億37百万円、未収入金が1億80百万円それぞれ増加したことによります。

負債面におきましては、買掛金2億60百万円、短期借入金2億50百万円それぞれ増加したことによります。

株主資本につきましては、大きな変動はなく、35億62百万円となりました。

## 【キャッシュ・フローの状況】

(百万円未満切捨)

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
18年3月期第3四半期	91	57	123	1,252
17年3月期第3四半期	135	87	562	1,074
(参考)17年3月期	44	293	427	1,094

## [ キャッシュ・フローの状況に関する定性的情報等 ]

当第3四半期における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)につきましては、平成17年3月期より1億57百万円増加(14.4%増)し、12億52百万円となりました。

当第3四半期における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、91百万円となりました。これは主に、仕入債務の増加にともなう支出が2億59百万円ある一方で、売上債権の減少による収入が1億25百万円生じたことによるものであります。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、57百万円となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出が37百万円及びその他の投資の取得による支出が31百万円あったことによるものであります。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は、123百万円となりました。これは主に、短期借入金の増加が250百万円あり、配当金の支払いが111百万円生じたことによるものであります。

## 添付資料

(要約)四半期貸借対照表、(要約)四半期損益計算書、(要約)四半期キャッシュ・フロー計算書

以上

## [ 参 考 ]

## [ 業績予想に関する定性的情報等 ]

当第3四半期の営業状況は概ね順調に推移しており、平成17年11月21日公表の通期の業績予想に変更はありません。

なお、予想値につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因により予想数値と異なる結果となる可能性があります。